

# 文教協会報

No.689

(令和7年12月)



まなびの泉  
心のかよいあい

わくわく協働活動  
ぬくもり  
ふるさと・再発見  
声 こえ VOICE  
～文教のまち 大垣～  
ふるさと美術散歩⑪

学びを支える……………2  
変化に対応できるPTA活動～新1年生の給食補助～(興文小学校) ……3  
PTA活動から考える「共創」のかたち(北中学校) ……3  
企業や大学からの講師も教える「スイトピア子どもクラブ」…4  
大垣市の不登校対策と対応について……………5  
100年前の「昭和の大垣」……………6  
私の地域に伝わるお話……………7  
大垣市×SDGsお化け 報告会・発表会に向けて ……8  
大垣市守屋多々志美術館を訪ねて……………8

## 大垣市文教協会60周年記念事業

子どもが主人公の「未来のすてきな大垣」づくり事業

「大垣市×SDGsお化け」を探せ(第2期)

受賞作品が決定しました!

節電すみよし灯台	アキヤーン
(どんなお化け?) 大垣市全体を見守っていて、電気の無駄使いをしている人を見かけたら、こっそり消している。	(どんなお化け?) 人が居なくなったので、虫や動物が住みついている。悲しみが怒りに変わると燃えることがある。



## — 学びを支える —

本年度、子どもたちの学びを支える2種類のテキストを部分改訂しています。

### ○小学校社会科副読本「おおがき」

小学校社会科副読本「おおがき」とは、小学校（義務教育学校）3年生から4年生において、大垣市に関する内容を学ぶ際、その学びを支える副読本です。

令和6年度から使用している教科書の内容等を踏まえた5年ぶりの改訂となります。

今回の改訂は、全面改訂ではなく、資料・統計資料、写真等を中心に見直し、現在の大垣市の状況をもとに学習ができるようにすることが目的です。

7月10日（木）に開催された、第2回の改訂委員会では、第1回の委員会で示された方向性や、スケジュールの確認に加え、改訂箇所への分担が行われました。これからは、担当箇所に関わる施設などに連絡を取り、委員の方が各々で取材を行い、作業を進めていきます。

小学校社会科副読本「おおがき」に関しては、校長先生を含め、7名の方に改訂委員としてご協力をいただいています。今年度中に全5回の編集委員会を開催し、副読本の完成を目指します。



小学校社会科副読本「おおがき」改訂委員会の様子



スーパーマーケットでの取材の様子

### ○「俳句・文学の薫る ふるさと大垣」季寄せ



ふるさと大垣科テキスト改訂委員会の様子

令和5年度までにふるさと大垣科のデジタルテキストに掲載されていた季寄せ（俳句で使う季語を集め、春夏秋冬の季節ごとに分類・整理したもの）を改訂し、より大垣市の子どもたちに合ったものにすることが目的です。

季語は、日頃から児童生徒の指導にあたっていらっしゃる委員の方々の経験を生かし、「子どもたちが使いやすいもの」、「大垣市にまつわるもの」を中心に選定いただきました。

この季寄せによって、子どもたちへの作句支援ができるだけでなく、子どもたちが「大垣らしさ」に着目した作句ができることも期待できます。

「俳句・文学の薫る ふるさと大垣」季寄せに関しては、校長先生、市の俳句指導員を含め、4名の方に改訂委員としてご協力をいただきます。そして、今年度中に全2回の編集委員会を開催し、デジタルテキストデザインの完成を目指します。

最後に、編集委員会で作成された季寄せは、ふるさと大垣科推進委員の皆様のご意見を反映させ、完成となります。このようにして完成したデジタルテキストデザインは、今後ふるさと大垣科のデジタルテキストに掲載する予定です。

改訂委員を引き受けていただいた先生方には、市内の子どもたちのためにご尽力いただいております。委員の方々に感謝をするとともに、指導の際、副読本や教科書を効果的に活用していきたいですね。

（文化振興課 栗原）





## 変化に対応できるPTA活動 ～新1年生の給食補助～

興文小学校 PTA会長 國島 匡

「変化」とは社会環境の変化はもちろん、学校、保護者の状態を含め日々移り変わる環境のことです。この変化に対応するために必要なのは、コミュニケーションと考えています。

そこで今年度のスローガンに「共創」を掲げ、子どもたちを中心に据えながら、関係者が協働して新しい価値を創造していければとの思いで活動しています。

具体的な取組として、新1年生の給食補助を行いました。4月9日から5月9日までの実働19日間、PTAの役員を中心に新1年生の保護者に参加を募り、総勢25名の方々にご協力いただきました。1日あたり3名～4名で補助に入り、希望者は子どもたちと一緒に給食も食べました。

この活動の背景には、新1年生は給食の配膳に慣れておらず、先生と補助の方だけではゆとりをもって指導や給食時間を過ごすことが難しいという懸念がありました。実際に補助に入るとエプロンがうまく着られない、お皿を落としてしまう、牛乳をこぼす、均等に盛りつけできないなど、さまざまな困りごとが起きました。

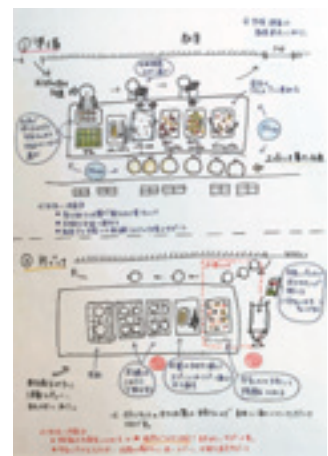
活動後の保護者アンケートでは、

- ・参加することで、学校の様子を知ることができました
- ・先生方のご苦勞を目の前で垣間見ることができました
- ・成長する子ども達を感じる事ができました
- ・子どもと一緒に給食を食べられ、味や量を知れました

といった感想が寄せられました。

活動を通してPTAが学校と保護者の橋渡し役を担うことでコミュニケーションが生まれ、相互理解を深めることができました。日々の交流があれば、不測の事態や変化が起こった時にも、すぐに協力できる体制を整えることができます。

今後も子どもたちへのサポートをとおして、関係者が迅速に意思疎通ができ、変化に対応できるように活動していきます。



給食配膳マニュアル

## PTA活動から考える「共創」のかたち

大垣北中学校 PTA会長 永田 和樹

「共創」という言葉を耳にする機会が増えました。学級目標として掲げられることもあるでしょうか。立場の違う者が互いを尊重しながら、新しい価値を共に生み出していく姿勢。それは今の時代に必要な力であり、子どもたちに伝えたい、大切なことのひとつです。

PTAは多様な人の集まりです。異なる生活スタイルをもつ保護者や先生は、役割も価値観も違います。その違いを持ち寄るからこそ、多様な視点の交わりが、新しい発想を生む、PTAはそんな共創を実現しやすい場なのではないでしょうか。

ともすると、保護者から学校にお願いする、あるいは学校側から保護者に依頼する——そんな形になりがちです。要望を出す側と受ける側に分かれてしまうと、それは協力であっても共創とは違いますし、負担感と不満が生まれやすいものです。

今年、「スポーツの集い」を盛り上げるために、PTAで企画を練り、可能な範囲で実現していただけよう、学校に提案をしました。それが先生に時間を取らせない、効率的な形であると考えていたからです。しかし、それは間違いでした。必要なのは、先生との対話、そして子どもたちも交えた協働だったようです。三者が異なる立場から意見を出し、互いの思いを交わしました。時間はかかり、当初案とは違う形となりましたが、より自然で意義深い答えに辿り着きました。

今、北中学校でも関わる人たちの負担軽減を目指し、新しい体制の検討に入っています。しかし、それは単なる効率化や活動の取捨選択ではいけないようです。保護者、先生、子どもたち、さらには地域の人たちも含め、どのように関わっていくことが、皆で「共創」の価値を共有することになるのか。そんなことを大切に進めていけたらと思います。



PTA本部役員によるTシャツの検収

## 企業や大学からの講師も教える「スイトピア子どもクラブ」

スイトピア子どもクラブは、小学3年生から6年生までを対象に、第2・4土曜日にスイトピアセンターなどで、理科系や文科系のさまざまなテーマで開講しているクラブです。

どのクラブも、楽しみながら学べる内容を考えて実施しており、子どもたちは地域や学校を越えて仲間をつくり、毎月楽しく参加しています。

今回は、講師として専門知識をもつ大学の先生や、市内企業の社員の方にお越しいただいているクラブを紹介します。

### 【ミクロ探検クラブ】

ミクロ探検クラブでは、シングルレンズ顕微鏡を自分で作り、身近な昆虫や植物を観察します。朝日大学などから3人の講師に来ていただき、琥珀を磨いて太古の虫を探すほか、企業に提供していただいた電子顕微鏡を使って、さらにミクロの世界を一緒に探検します。



電子顕微鏡で観察する子どもたち



マーブルクレヨン作り

### 【SDGs未来創造クラブ】

SDGs未来創造クラブは、使わなくなったクレヨンを再生して作るマーブルクレヨンや、玉ねぎの皮を染料に使ったハンカチ染めなどを通して、SDGsについて楽しく学びます。

市内企業の(株)リリフル、(株)艶金、サンメッセ(株)の方々に講師としてご協力いただいています。

### <令和7年度スイトピア子どもクラブ>

No.	クラブ名	活動内容
1	発明クラブ1	キットを使用しながら、紙・木工作などの基礎を学ぶ
2	発明クラブ2	自動車や発電機を作りながら、電子工作の基礎を学ぶ
3	造形クラブ	砂絵やカード作りなど、学校で学ばないことにチャレンジする
4	科学クラブ1	工作や実験をとおして、身の回りの不思議を体験する
5	科学クラブ2	いろいろな科学工作・実験を通じて、楽しさを体験する
6	化学クラブ	おもしろい化学実験を体験する
7	電気・電子工作クラブ	ラジオを作製しながら、はんだごての基礎を学ぶ
8	自然クラブ	野外活動で、鳥・魚・昆虫など自然の不思議を学ぶ
9	スイーツクラブ	ケーキなどのお菓子を楽しく作る
10	手編みクラブ	簡単にできる編み物や、おやつを作る
11	ミクロ探検クラブ	シングルレンズ顕微鏡を作って、昆虫や植物を観察する
12	SDGs未来創造クラブ	マーブルクレヨンやハンカチ染めなどをとおしてSDGsを学ぶ

【問合せ先】 社会教育スポーツ課 TEL0584-47-8039



# ぬくもり

## ～大垣市の不登校対策と対応について～

### 1 はじめに

近年、不登校児童生徒数は全国的に増加しており、本市においても同様の傾向が見られます。特に小学生の不登校児童の増加が顕著であり、その背景には、友人関係や学習への不安、心身の不調や生活リズムの乱れなど、多様な要因が複雑に絡み合っています。従来の「学校復帰」を目標とした支援から、今は児童生徒一人一人の状況に応じた支援が求められています。

### 2 研究所の役割

教育総合研究所は、「明日もまた来なくなる学校づくり」を目指し、困り感をもつ児童生徒、保護者、教職員を支援することを役割としています。具体的には、悩みの相談窓口となる電話相談や来所相談、また不登校児童生徒が通う2つの適応指導教室の運営や訪問支援、教職員への研修の企画・運営などを行っています。

### 3 具体的な取組

#### (1) 未然防止・不登校対策

##### ①学びの多様化学校「西濃学園」との連携

初任者研修や指定校の研究実践を通して、教職員のスキルの向上を図っています。

##### ②心の健康観察システム「ここタン」

児童生徒の心の変化を一人一台端末で把握できるようにしています。

新規事業R7.7月～

#### (2) 初期対応

欠席3日報告（欠席が3日以上続いた場合、学校が教育委員会に報告し、連携を図ること）や校内ケース会議（児童生徒の支援の在り方を確認する会議）の徹底を行い、初期段階での対応を強化しています。また、研究所の所員や臨床心理士が学校へ出向き、参観や助言を行っています。

#### (3) 不登校対応：居場所づくり＜学校＞

市内全ての学校に「ほほえみ相談員」を配置し、校内教育支援センター（相談室）の効率的な運営と安心して過ごせる居場所づくりをしています。

#### (4) 不登校対応：7つの支援＜研究所＞

不登校に関わる支援の種類は、児童生徒の状況に応じて7つあります。

##### ①適応指導教室「ほほえみ教室」

学習意欲はあるが、学校に通うことが難しい児童生徒が通っています。

##### ②フリースペース型適応指導教室「とまり木教室」

現状、学習に対して消極的で、学校などに行くことが難しい児童生徒が、家から一歩踏み出すきっかけを目指した教室です。自己決定を尊重した自由な活動を実施し、子どもの社会的スキルや自立心を育てています。



ほほえみ教室



とまり木教室

##### ③ほほえみスタディサポート（HSS）

教員免許をもった学習支援スタッフが、家庭訪問して、勉強を教えます。

##### ④メンタルフレンド（MF）

年齢の近い大学生ボランティアが家庭訪問し、一緒に遊んだり話したりします。

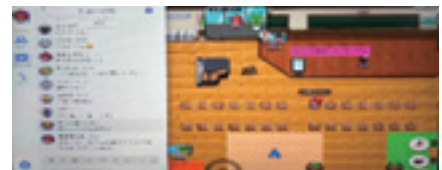
##### ⑤登校支援

研究所の生徒指導相談員が家庭訪問し、登校支援を行います。

##### ⑥メタバース

新規事業R7.6月～

家族以外の外部と繋がりをもつことが難しい児童生徒に対し、仮想空間を新たな居場所として提供しています。



アバター(左)と、メタバースの画面(右)

##### ⑦民間施設との連携（フリースクール等）

家庭と学校、教育委員会、民間施設との連携を図っています。

### 4 おわりに

今後も大垣市では、児童生徒や保護者、学校へのきめ細やかな支援を進めていくとともに、民間施設との連携や、教職員の専門性の向上を図りながら、さらなる支援の充実を進めてまいります。そして、「明日もまた来なくなる学校づくり」の実現に向け、児童生徒一人一人に必要な支援を届けていきます。

（大垣市教育総合研究所 浜田 諭美）

## 100年前の「昭和の大垣」 KAGAYAKI SPOT

今年2025年は、昭和元年（1926）から数えて100年目の年、昭和100年にあたります。昭和100年をテーマに、新聞やテレビなど、さまざまなメディアで、昭和を振り返る特集が企画され、当時の様子が紹介されています。100年前の昭和の大垣はどんな様子だったのでしょうか。

### 1 昭和元年の日本

大正天皇の崩御により、1926年12月25日、元号は大正から昭和へと変わりました。当時の社会は、大正デモクラシーの風潮を背景に、満25歳以上の男性に選挙権が与えられる普通選挙法が施行されました。生活面では、ラジオ放送が始まり、映画が制作され普及し、デパートやホテルなど洋風建築が建ち、洋食など欧米風の生活様式が定着し、華やかになっていきました。その一方、経済的には、第一次世界大戦が終結したことや関東大震災で東京が被災したことが影響し、不況に悩まされていました。

### 2 昭和元年の大垣

大正7年（1918）4月、大垣は、市制施行により市として誕生しました。工業の発展に良い条件を備えていた大垣は、大工場の誘致に成功し、工場の増加とともに周辺地域の人口も増え、産業都市として確立しました。大正14年には、都市計画指定都市となり、昭和に入ると、工場誘致の機運はさらに高まり、周辺地域との町村合併が進み、新しい道路網も整備されていきました。

不景気ではありましたが、公益質屋、公営住宅の設置、養老華園の創設、職業案内所の開設などの市民に向けた政策が講じられていきました。

### 3 『大垣』にみる昭和の大垣

『大垣』は、昭和初期、大垣商業会議所と大

垣市役所が発行した大垣の様子を紹介した本で、人口などの統計や公共施設の概略、史跡名勝の案内などが掲載されています。

昭和2年発行の『大垣』によると、当時の人口は35,075人（大正14年統計）、面積は0.29方里（約5.24km<sup>2</sup>）。気候は「温和にして空気の乾湿宜しき」「殊に水質清冽純良にして衛生に適す」と紹介されています。

市長は東島卯八氏。工産物（工業生産物）の金額は、大正元年の86万9千余円から大正14年の3533万4千余円という約40倍の激増であったことや学校・幼稚園、病院のほか、託児所もあり、生活面において整備されていたことがわかります。娯楽では、玉突場（ビリヤード）、活動写真館、観工場（デパートの前身）があり、



昭和2年発行『大垣』  
(大垣市立図書館蔵)

西洋文化が定着していたことがうかがえます。

本に収録されている広告からは、モダンで、お洒落な大垣を感じることができます。

100年ほど前に出版された本から、産業都市として発展し、整備されていく昭和の大垣がわかります。



『大垣』収録の広告  
(大垣市立図書館蔵)

(図書館 歴史研究グループ 長瀬 とも)

## 私の地域に伝わるお話

本田 政子

この村は、正応元年（1288年）江州（今の滋賀県）に住んでいた、佐々木源氏の後裔の和田伊織という人が帰農して開拓した村でした。

このとき、あらたに白髭神社を建立し、その守護神として、戎（えびす）さんと午頭天王（こずてんのう）さんが祀られました。

以来、守護神は、代々、庄屋の家が中心となって守り、村の氏神様として信仰されてきました。しかし、その信仰には、不思議な禁忌がいくつかありました。

一つに、昔から天王様のお祭りは、陰暦の6月14日から15日で、このお祭りが済むまでは川での遊びが禁じられていました。村の子どもたちは、暑い夏の水遊びを楽しみに天王さん祭りを待ちわびていました。

二つに、この村では村中で、「胡瓜の切り口の模様が天王さんの紋所に似ているから神様にもったいない、罰が当たる」と言い伝えられ、昔から胡瓜の栽培は勿論、絶対に食べないということになっていました。

しかし、村から他所へ行った時など、胡瓜を御馳走になる時代の変遷には勝てぬものです。昭和の初めごろ農学校で勉強した若者が自立して胡瓜栽培を始めてからは、胡瓜を食べると罰が当たるのは「迷信だわなも」と言うことになって何時（いつ）とはなしに、禁忌は崩れ始めたのでした。

また、最後まで頑張ってきた当主も昭和30年

頃、とうとう祖父の許しを得て伝統の禁忌を破ってしまったそうです。



本田政子さんは、静里地区に伝わる昔話の調査をし、語り継ぎをされている方です。

そして、静里小学校3年生の子どもたちは、本田さんにご協力をいただき、ふるさと大垣科（第3部）の学習の中で静里地区の昔話について学んでいるそうです。

ふるさと大垣科（第3部）の小学校用テキストには、各小学校区の昔話が掲載されています。

きっとみなさんの住む地区にも、さまざまな昔話や伝承があることでしょう。調べてみると、おもしろい発見があるかもしれませんね。





## ～ 文教のまち 大垣 ～

### 大垣市×SDGsお化け 報告会・発表会に向けて

今年度の夏休み期間に、「子どもが主人公の『未来のすてきな大垣』づくり事業 大垣市×SDGsお化けを探せ（第2期）」の作品募集を行いました。

夏休みをまたぐ募集ということで、家庭や社会、子どもたちの身近な問題に向き合ったお化けの報告が約600点集まりました。

9月17日（水）に本審査が行われ、第2期の優秀作品として5体を選出しました。審査の中では、複数のSDGs目標を組み合わせた作品が増え、問題提起型から解決志向型の作品名へと変化していることが話題になり、第1期からの深化が見られました。

文教協会報では、本号より第2期受賞作品も、



審査会の様子



イートミー



コイバー

表紙で紹介していきます。

現在、大垣市×SDGsお化けバスターズも活動しております。「イートミー」チームによるフードロス削減のためのレシピ開発、「コイバー」チームによる清掃イベントなど、第1期に引き続き、第2期についても、お化けバスターズによる活動を行っていく予定です。

11月15日（土）には、「大垣市×SDGsお化け 報告会・発表会」を開催し、バスターズの報告会、優秀作品の発表を行っていきます。



バスターズの様子

（学校教育課 鈴木 宏教）

### ふるさと美術散歩⑪ 大垣市守屋多々志美術館を訪ねて



《誕生（聖徳太子）》平成12年（2000）（大垣市蔵）

我先にと請願する10人の言葉を漏らさず聞いて、一度で理解し、的確な答えを返した稀代の天才。累計7回と最も多く紙幣の肖像として使用された歴史上の人物。ここまで聞けば、多くの人が、その人物は聖徳太子（574-622）と答えるでしょう。

歴史の授業では、推古天皇の摂政となり、冠位十二階の制定、十七条の憲法の発布、遣隋使の派遣を行うなど、数々の偉業を実施してきたことを習います。

守屋多々志は、米寿と西暦2000年の節目を機

に、もう一度生まれ変わりたいという思いを込めて、聖徳太子の誕生の場面を描きました。

母である穴穂部間人皇女<sup>あなほべのほしひとのひめみこ</sup>は、馬小屋の前で産気づいたとされており、厩戸皇子<sup>うまやどのみこ</sup>とも呼ばれています。また、西方の救世観音菩薩<sup>くぜ</sup>が皇女の口から胎内に入り厩戸皇子を身籠もった、ともされています。この2つの逸話は、キリスト誕生の伝承とも共通しており、日本書紀成立時に大陸経由で伝わった景教<sup>けいきょう</sup>（キリスト教ネストリウス派）の影響など諸説あります。

作品の背景は、黒色－金色－黒色と三分割されており、赤ん坊の厩戸皇子の部分がちょうど金色に輝く光が差しむように描かれています。母親は温かいまなざしで我が子を迎え、右端に描かれた馬も優しく見守っており、守屋の穏やかな性格と、動物好きなところが、よく表れた作品に仕上がっています。

#### 企画展「動物いっぱい」

会期：令和7年12月13日（土）～令和8年2月8日（日）

動物好きとして知られる守屋多々志の、歴史画やスケッチに描かれた動物たちに着目して展示。

